

スポーツ参与に関する一考察 —学生のスポーツ実施に及ぼす影響の観点から—

渋谷崇行* 小泉昌幸**

(平成8年10月31日 受理)

A Study of Sport Involvement — From the Viewpoint of Effect toward Sport Participation in College Students —

Takayuki SHIBUKURA * Masayuki KOIZUMI **

The purpose of this study is to clarify the relationships among the primary involvement in sport in the past, the value consciousness for sport and the sport participation at present. In order to determine these assignments, three hundred and eighty-five male and female college students, were administered by questionnaire.

The main results were as follows:

1. Those who liked physical education participate more in sport than those who did not.
2. Those who were involved in sport in the past are more likely to participate in sport now.
3. They found sport values in building up physical strength, becoming healthy, being fun, improving skill, and nurturing force of mind.
4. Pleasant experiences in the past are important to the sport participation.
5. Good memories in the past they had had are't always related to the sport participation at present.

Key words : sport involvement, sport participation, value-orientation

1. はじめに

過去のスポーツ参与経験がその後のスポーツ実施に影響することは既に多くの研究で明らかにされている。丹羽・長沢^{9,10)}は、女子大生のスポーツ参加の規定要因について検討しており、女子大生のスポーツ参加を最も強く規定する要因として運動部経験をあげている。桑野ら⁶⁾は大学生を対象にスポーツ参与の分析を行った。結果、高校時代のクラブ参加が現在の直接的スポーツ参与に最も強い影響を及ぼすと報告している。また、小椋・影山¹¹⁾は社会人を対象にした同様の研究から、スポーツ実施に比較的大きな影響を及ぼす要因として、過去のスポーツ経験について指摘している。筆者ら⁵⁾もスポーツ参加の要因として、価値意識の分析を中心に明らかにしてきた。

一方、学校の体育授業とその後のスポーツ実施との関連についてみると、仲澤⁸⁾は、学校期の低い段階からスポーツへの態度を積極的なものにすることが必要であるとして、筆者ら⁴⁾の過去の研究においても、体育授業は小・中・高等学校をとおしての一貫性と将来へつなげることのできる種目の設定が必要であるとの見解を示した。

このように、過去のスポーツ参与経験はその後のスポーツ実施に影響しているといえる。しかしながら、参与経験それ自体が独立して機能したとは考えにくい。周知のとおり人間の行為には動機があり、この動機は個人的欲求とそれを望ましいと考える個人の価値意識に基づいている。つまり、過去のスポーツ参与経験は個人の価値意識¹³⁾を媒体としてその後のスポーツ実

* 体育学 助手

** 体育学 助教授

施に影響を与えるものと考えられる。

このような課題に対し、直接的に参加するスポーツ活動はもちろん、スポーツ観戦やマス・コミ等を媒体としたスポーツ参加の形態についても注目する必要があると考えられる。今やメディアを介したスポーツとの接触の機会は、直接的なそれを上回る勢いで増大している。スポーツに対する価値形成やスポーツ実施に対しても、これらは重要な役割を担っているといえる。

スポーツ参与(sport involvement)とは直接的なスポーツ参加だけではなく、「みたり、聞いたり」といった間接的なスポーツ参加をも含む概念である³⁾。前者を特に「直接的(1次的)スポーツ参与(primary involvement)」, 後者を「間接的(2次的)スポーツ参与(secondary involvement)」と呼んでいる。スポーツへの社会化のエージェントとして、新聞、テレビなど「マス・メディア」の影響が強い^{2,7,12)}ことを考慮すれば、本研究を進めるにあたってこれらは重要な概念と解釈できる。つまり、現在のスポーツ実施を規定する要因である過去のスポーツ参与経験を、直接的スポーツ参与と間接的スポーツ参与との両者の側面から検討するものである。

そこで、本研究においては、過去のスポーツ参与経験を意識の面からとらえ、記憶¹⁾として残されたスポーツに関わる過去の経験と現在のスポーツに関する価値意識、及びスポーツ実施との関連を分析することを目的とする。

2. 研究の方法

本研究の目的に合致する調査票を作成し、質問紙法による調査を1996年7月に行った。調査対象者は、本学学生1・2年生555人で、授業時間を利用し調査者が説明をしながら実施した。調査の内容は、過去のスポーツ参与経験について、現在のスポーツ実施状況について、スポーツに対する価値意識について等であった。有効回収数は385(男子332, 女子53)、有効回収率は69.4%であった。

3. 結果及び考察

3.1 過去のスポーツ参与経験と現在のスポーツ実施

Table 1は、小・中学校時代の体育授業の好き嫌いが、現在のスポーツ実施にどれだけ影響を及ぼしているかをみたものである。

Table 1 Impression of physical education and sport participation

Variable	Participated	Not participated
Like	163 (60.1%)	108 (39.9%)
Dislike	43 (39.4%)	66 (60.6%)

$$\chi^2=13.416 \quad p<0.001$$

現在のスポーツ実施率は、体育授業が好きだった者が60.1%、嫌いだった者が39.4%であり、 χ^2 検定の結果、0.1%水準で体育授業が好きだった者の方が現在のスポーツ実施率が高いという結果であった。つまり、小・中学校時代の体育授業での経験は、スポーツの好き嫌いに大きな影響を及ぼしているということである。換言すれば、この時期の体育授業での経験は、現在のスポーツ実施を決定するための要因の一つになっているといえよう。

Table 2, 3は、小・中学校時代のスポーツ参与経験(直接的スポーツ参与経験と間接的スポーツ参与経験)における記憶の記入の有無と、現在のスポーツ実施との関連を示したものである。

直接的スポーツ参与経験についてみると、「記入あり」におけるスポーツ実施者は、小学生時代59.0%、中学生時代58.6%となっており、過去の経験を記入した者は、現在のスポーツ実施率がそれぞれ高いことを示している。また、間接的スポーツ参与経験についても、「記入あり」におけるスポーツ実施者は、小学生時代64.9%、中学生時代60.3%となっており、こちらも直接的スポーツ参与経験同様、高い実施率を示している。

Table 2 Experience of primary involvement and sport participation (%)

Term		Participated	Not participated	Chi-square
Elementary school	Answered(n=251)	59.0	41.0	$\chi^2=6.013$
	No answered(n=131)	45.8	54.2	p<0.05
Junior high school	Answered(n=261)	58.6	41.4	$\chi^2=5.778$
	No answered(n=121)	45.5	54.2	p<0.05

Table 3 Experience of secondary involvement and sport participation (%)

Term		Participated	Not participated	Chi-square
Elementary school	Answered(n=154)	64.9	35.1	$\chi^2=11.436$
	No answered(n=228)	47.4	52.6	p<0.001
Junior high school	Answered(n=156)	60.3	39.7	$\chi^2=3.897$
	No answered(n=224)	50.0	50.0	p<0.05

せよ、その記憶を記述することができるということ、言い換えれば、過去のスポーツ経験が明確にインプットされ、はっきり記憶しているものほど、現在もスポーツに対して関心が高くスポーツへの実施率も高くなるということが明らかになった。

Table 4 Mean of value items

Variable	Mean
Physical strength	4.58
Health	4.54
Spiritual strength	4.21
Humanity	3.85
Sociality	3.49
Skill	4.24
Pleasure	4.50
Record	3.43
Participation in competition	3.40
Attraction	3.17
Leadership	3.20
Win	3.67

3.2 過去のスポーツ参加経験とスポーツに対する価値意識

Table 4は、スポーツに関する価値意識について操作的に12項目であらわし、それぞれの価値項目に対して「非常に認める」を5、「やや認める」を4、「どちらともいえない」を3、「あまり価値を認めない」を2、「ほとんど価値を認めない」を1とした5段階評定により回答を求め、その平均値を示したものである。

価値支持傾向をみた場合、5段階評定で平均値が4.00以上の高い値を示したものは、「体力づくり」「健康」「楽しさ」「技術の向上」「精神力」の5項目であった。この結果より、スポーツという行為のもつ価値については、楽しみながら技術を習得し、健康・体力づくりの手段として役に立つもので、精神力も身につくものであると考えているといえる。

Table 5, 6は、現在のスポーツに対する価値意識と過去のスポーツ参加経験の記入の有無との関連についてみたものである。

Table 5 Experience of primary involvement and value-orientation

Variable	(\sqrt{CR})	
	Elementary school	Junior high school
Physical strength	0.057	0.064
Health	0.080	0.107
Spiritual strength	0.093	0.098
Humanity	0.087	0.071
Sociality	0.071	0.128
Skill	0.021	0.082
Pleasure	0.071	0.082
Record	0.085	0.142
Participation in competition	0.094	0.094
Attraction	0.087	0.101
Leadership	0.138	0.086
Win	0.086	0.128

直接的スポーツ参加経験においては、小・中学校時代とも記入の有無と関連のある価値項目はみられなかった。一方、間接的スポーツ参加経験についてみても、記入の有無と関連のある価値項目は、小学校時代は「健康」、中学校時代は「楽しさ」「かっこ良さ」であった。ここ

Table 6 Experience of secondary involvement and value-orientation (√CR)

Variable	Elementary school	Junior high school
Physical strength	0.085	0.080
Health	0.172 *	0.137
Spiritual strength	0.139	0.094
Humanity	0.136	0.051
Sociality	0.146	0.109
Skill	0.056	0.046
Pleasure	0.098	0.162 *
Record	0.085	0.042
Participation in competition	0.082	0.063
Attraction	0.127	0.170 *
Leadership	0.084	0.108
Win	0.044	0.141

では、記入の有無と関連のある価値項目が、小学校時代は1項目だったものが中学校時代には2項目になっている。このことは、中学校時代にスポーツに間接的に参与することにより、わずかではあるが、スポーツに関する価値を見出し、そして、それを判断する能力が少しずつ備わってきたあらわれと考えられる。

* p<0.05

過去のスポーツ参加経験とスポーツに対する価値意識についての議論から以下の点が指摘できる。

1) スポーツの直接経験あるいは間接経験の記入の有無と現在のスポーツに対する価値意識とに関連があまりみられなかった理由としては、両者ともスポーツに対して同様に価値を認めているということが考えられる。

2) 支持率の高い価値項目の中で間接的スポーツ参加経験の記入の有無と関連が高い項目は「楽しさ」であった。また、中学校時代にはスポーツをみたり聞いたりする、間接的スポーツ参加の機会が増し、それによりスポーツを楽しむ能力が備わったといえる。

3.3 スポーツに対する価値意識と現在のスポーツ実施

Table 7は、スポーツの価値と現在のスポーツ実施との関連についてみたものである。χ²検定の結果、有意水準0.1%以上の非常に高い関連を持つものは「技術の向上」「楽しさ」、1%水準の有意な関連を持つものは「人間性」、5%水準の有意な関連を持つものは「成績・記録」であった。

この結果より、「技術の向上」「楽しさ」「成績・記録」は、スポーツをすることによってそのメリットを感じることでできる性質の価値項目であることを示しているといえる。つまり、これらは実際にスポーツをしなければ本当の良さが理解できない具体的な価値であると考えられる。

Table 7 Sport participation in the present and value-orientation

Variable	Chi-square	Significance
Physical strength	3.323	
Health	1.690	
Spiritual strength	8.156	
Humanity	14.384	p<0.01
Sociality	2.103	
Skill	21.271	p<0.001
Pleasure	18.554	p<0.001
Record	9.975	p<0.05
Participation in competition	9.442	
Attraction	6.427	
Leadership	5.930	
Win	9.069	

* An each variable showing significant different was the value that participation group is together high.

前述したとおり、スポーツに関する価値として誰もが認めるのは「体力づくり」であり、その結果として認められてくるのが「健康」であった。そして、「楽しさ」をはじめとするスポーツの具体的な価値は、継続してスポーツを行うことにより再認識され、先の基本的な内容と共に新たな価値意識として再構成されたものと考えられる。この点からすると、いかにスポーツの楽し

さを浸透させていくかがスポーツ実施のための重要なファクターになってくるといえる。また、スポーツ経験の記入があるほど現在のスポーツ実施率が高かったことから、「楽しさ」などの具体的な価値の認識には、過去のスポーツ参与経験と関連があるともいえよう。

これまでの議論より、スポーツ実施に対しては、その活動内における「楽しさ」の必要性が示唆された。このことから、過去のスポーツ参与経験が現在のスポーツ実施に対して効果的に機能するためには、それがスポーツの「楽しさ」志向に結びつくことにより可能となると考えられる。そこで、過去のスポーツ参与経験の内容を分析するにあたり、「楽しさ」志向という観点から「よい思い出」に注目し、内容の分析を試みた。

Table 8 は、過去のスポーツ参与経験における記述のうち、「よい思い出」の内容についてみたものである。現在スポーツを実施しているもので記入の多かった回答は、小学校時代は、「競技会などでの優勝・入賞経験」「目標達成」「大会出場・代表選手になる」、中学校時代は、「競技会などでの優勝・入賞」「大会出場・代表選手になる」「目標達成」の順であった。また、現在スポーツを実施していない者の記入内容についてみると、小学校時代は、「競技会などでの優勝・入賞経験」「目標達成」「大会出場・代表選手になる」、中学校時代は、「競技会などでの優勝・入賞経験」「大会出場・代表選手になる」「目標達成」の順であった。

このことはすなわち、スポーツをすることにより、達成感を感じることができたとしても、現在のスポーツ実施には結びつくとはいえないということである。スポーツにおいて現在の楽

Table 8 Contents of description about experience of primary involvement (%)

Category	Term	Participated (n=121)	Not participated (n=69)
Win	Elementary school	38.0	33.3
	Junior high school	30.6	24.6
Friend	Elementary school	9.1	7.2
	Junior high school	5.8	10.1
Health and physical strength	Elementary school	4.1	4.3
	Junior high school	9.9	5.8
Get a regular position	Elementary school	11.6	13.0
	Junior high school	18.2	20.3
Pleasure	Elementary school	6.6	2.9
	Junior high school	4.1	11.6
Achievement	Elementary school	18.2	21.7
	Junior high school	11.6	13.0
Meet a nice coach	Elementary school	3.3	2.9
	Junior high school	5.8	0.0
Come to like sport	Elementary school	5.0	1.4
	Junior high school	2.5	2.9

しさを規定しているのは過去の優勝・入賞経験の方が強く、過去の達成感は価値としては残るが、現在のスポーツ実施には直接的に結びついているとは必ずしもいえないのである。

しかし、現在スポーツを実施していない者の記入内容が実施している者の内容とほぼ同じような傾向を示したことにより、両者のスポーツに対する「よい思い出」には大きな差はないといえる。

4. まとめ

本研究では、スポーツ実施を規定する要因について、過去のスポーツ参与経験を意識の面からとらえ、記憶として残されたスポーツに関わる過去の経験と現在のスポーツに関する価値意識及びスポーツ実施との関連から検討を進めてきた。

その結果、以下のことが明らかになった。

1) 小・中学校時代の体育授業は、現在のスポーツ実施に大きく影響していた。この時期の体育授業がいかに重要であるかということである。彼らにとって、体育授業は魅力的なものであ

る必要がある。その為には、生涯スポーツ時代のニーズに対応し、スポーツすることの楽しさを授業の中核に据え、健康、体力形成や技能的発達を考慮に入れた内容の学習を展開させる必要がある。そして、そうした授業を实践できる指導力を教師は持ちえなければならない。

2) 過去においてある程度スポーツを経験し、その経験を明確に記憶している者は、現在もスポーツに対して関心が高く、スポーツへの実施率も高くなっている。小・中学校時代にスポーツに参加すること、特に、楽しさの体験は現在のスポーツ実施率へつなげるために重要といえる。

3) スポーツに対する「よい思い出」は、現在のスポーツ実施率と直接結びついているとはいえなかった。スポーツをすることでいわゆるスポーツの価値を十分実感し認めてはいるが、他の外的理由により、現在はスポーツ活動を実施できていないと考えることができる。これらの者は一定の条件を整えばすぐにでもスポーツを実施する可能性の高い、実施予備群としてとらえるべきであることを示唆しているといえる。この点については今後の課題として、さらに検討を加えていきたいと考えている。

References

- 1) G.コーエン・M.W.アイゼンク・M.E.ルボワ. 認知科学研究会訳. 認知心理学講座 1 記憶. 海文堂:東京, pp. 6-9. 1989. (G.Cohen, Michael W. Eysenck and Martin E. LeVoi. Memory:A Cognitive Approach:Open Guides to Psychology. The Open University Press. 1986.)
- 2) 嘉戸脩・永島惇正・川辺光・荻原美代子・加藤爽子. 直接的スポーツ関与の分析とその要因に関する研究. 体育社会学研究会編, 体育社会学研究 6. 道和書院:東京, pp. 25-56. 1977.
- 3) 影山健・今村浩明・佐伯聰夫. スポーツ参与の社会学について. 体育社会学研究会編, 体育社会学研究 6. 道和書院:東京, pp. 1-23. 1977.
- 4) 小泉昌幸・斉藤定雄・北村薫・太田雅夫・木村博人. 過去のスポーツ経験に関する一考察—スポーツ参加の要因分析として—. スポーツ教育学会第9回大会抄録集:32. 1989.
- 5) 小泉昌幸・須田洋・太田雅夫・三浦康暢・須田柳治. スポーツ領域に対する生徒の意識に関する研究. スポーツ教育学研究 8-2:65-77. 1988.
- 6) 桑野豊・池田勝・山口泰雄. パス解析によるスポーツ参与の分析. 筑波大学体育科学系紀要 2:28-29. 1979.
- 7) 丸山富雄. スペクテーター・スポーツの社会的機能に関する考察. 体育社会学研究会編, 体育社会学研究 6. 道和書院:東京, pp. 213-224. 1977.
- 8) 仲澤眞. 生涯スポーツに及ぼす学校期の経験の影響に関する研究—各学校期における年齢的变化を中心に—. 日本体育学会第37回大会号 A:132. 1986.
- 9) 丹羽劭昭・長沢邦子. 過去の運動部経験がスポーツや体育への意識に及ぼす影響. 日本体育学会第27回大会号:129. 1977.
- 10) 丹羽劭昭・長沢邦子. 女子大生のスポーツ参加を規定する要因の検討. 体育学研究 23-2:109-119. 1978.
- 11) 小椋博・影山健. 労働要因がスポーツ参与に及ぼす影響の分析. 体育学研究 22-5:315-316. 1978.
- 12) 沢田和明・布施善克・宮内孝知. Secondary Involvement (間接的スポーツ関与)に関する研究. 体育社会学研究会編, 体育社会学研究 6. 道和書院:東京, pp. 69-99. 1977.
- 13) 上杉正幸. スポーツ価値意識の論的方向性. 体育社会学研究会編, 体育社会学研究 6. 道和書院:東京, pp. 193-211. 1977.